

情報共有 5枚
(非管理文書)

官邸班
NIS班 ← フォレス対応チーム
(東電分室のみ)
本店レク 議事メモ

日時：平成23年6月2日(木) 18:00~19:10

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約40名(カメラ3台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

柏崎刈羽原子力発電所

本店広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析結果
- ・ 福島第一原子力発電所タービン建屋付近のサブドレンからの放射性物質の検出について
- ・ 福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について
- ・ 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について(6月1日採取分)
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ等
- ・ 福島第一原子力発電所 モニタリング結果
- ・ 福島第一原子力発電所1号機 仮設原子炉圧力計設置について

より配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 民主党の議員が、追加公表分のモニタリングポストの数値が高い旨の発言をしているが、どの数値を指しての発言と考えるか。

A. 実際に発言を聞いていないため、どの数値について言及しているかは不明だが、追加発表分で最も放射線量が高い数値は、3月12日午後3時29分にモニタリングポスト4で観測した $1,015.1 \mu\text{Sv/h}$ 。ちなみに既に公表済みの値で最も高いのは、3月15日午前9時頃に観測した $11,930 \mu\text{Sv/h}$ 。

Q. 4号機で火災があった3月15日午前9時から9時15分までのデータが抜けているがその理由は。意図的にデータを公表しなかったのか。

A. モニタリングポイント4の数値等ある一定期間まとまった期間公表できていない理由については現在聞き取り調査を行っている。調査結果がまとまり次第公表させて頂く。データの公表ができなかったのは、意図的ではなく作業が輻輳した結果と考えている。

Q. 既存のモニタリングデータと今回追加で公表したデータを比較すると追加データの値が高いように感じるがどうか。また、モニタリングデータが未公表だった理由についてはいつ説明があるのか。

A. モニタリングポスト4については、既に公表していた正門付近やモニタリングポスト8と比較すると数値が高い。理由としては当時の風向きが影響したのではないかと考えている。データが未公表であった理由は、今週末か来週早々に公表したい。

Q. 本日、内閣不信任案が否決され、菅総理大臣が震災復興の自処が立った段階で辞任すると表明しているが、このことは何か現場の作業に影響はあるか。

A. 当社としては工程表で示した対策を着実に実行していきたいと考えている。引き続き必要に応じて政府のご指示・ご支援等を頂きながら進めてまいりたい。

Q. 1号機に仮設原子炉圧力計を設置するのは、原子炉圧力データの信憑性が低い
ためか。

A. プラント関連パラメータをみると、原子炉圧力のA系とB系の数値の差がありすぎると考えている。また本日B系の圧力は1.575MPagであるが、注入しているポンプの圧力より高い値であることから、若干信憑性が低いのではないかと。今後より正確なデータを計測するために、今回原子炉圧力計器を設置することとした。

Q. 今回圧力計を設置した結果、水位計を校正した時のように、今までと全く異なる数値が出る可能性はあるか。

A. 現在、原子炉へ約1MPaで注水できていることから、実際の炉圧が現在の指示数より著しく高くなるということはないのではないかと。

Q. 1号機原子炉建屋地下の溜まり水の水位が下がっている理由は、仮に漏えいしているとする対策はあるのか。

A. 水位が低下している理由は不明。建屋の中で水が移動しているのか、タービン建屋に流れ込んでいるのか原因は分かっていない。ただ現段階では、地下水の水位が原子炉建屋の水位より高いこととサブドレン水核種分析の数値に大きな変化がないことから漏えいのリスクは低いのではないかと考えている。将来的には地下に遮水壁を設置して仕切る予定。

Q. 2, 3号機炉内の燃料は現在どのような状態と考えるか。

A. 2, 3号機については、原子炉水位が燃料集合体の半分程度まで水位があるケースと圧力容器内の水がほとんどないケースの2種類の解析を実施している。水位が維持できている場合は、炉心の半分が原子炉支持盤の上に残っており、半分が支持盤の下に落ちていると考えている。また圧力容器内にほとんど水がないと仮定すると炉心の大部分は炉心支持盤の下にあると考えられる。2, 3号機原子炉建屋内の環境改善の後、水位計の校正ができれば炉内の状況が把握できると考

Q. 今後、消火系ラインに切り替える可能性はあるのか。

A. 現時点では給水系ラインのみで十分と考えている。

Q. 2号機使用済燃料プールの冷却が順調に進んだことにより、今後の具体的な作業計画はどうなっているのか。

A. 2号機原子炉建屋内の環境改善については、もう1度建屋内に入って確認する必要がある。湿気やダストの問題については今月中に対策を実施する予定である。

Q. 今回の原発事故が政局に与える影響が大きいように感じるが、その点についてどのように考えているのか。

A. 政局というよりも、今回、福島第一原子力発電所で重大事故を起こし、放射性物質を放出した結果、周辺住民の方に多大なご迷惑をおかけし申し訳ないと思っている。早く避難されている方々が自分の家に帰れるよう対策を施していくことに注力していきたい。

Q. 1号機仮設原子炉圧力計での数値が判明した後は、過去のデータを修正するのか。

A. 地震発災後に炉心損傷を受け、計器その他格納容器内の温度が上昇している状況があるため、どの段階で今の圧力計の指示値が健全性を保てなくなったのかについて評価する必要があると考えている。

Q. 圧力計の数値はシミュレーションに大きな影響を与えるのか。

A. どちらかと言えば、水位の方がシミュレーションに与える影響は大きいと考えている。

Q. 「福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について（第71報）」の評価結果を見ると、検出された成分はどれも横ばいになっているが、これは放射性物質が出ていると考えるべきか、それとも滞留していると捉えるべきか。

A. セシウムは半減期が長く横ばい傾向である。沖合では検出限界未満であるが、沿岸部については海流の流れの程度が小さく、滞留気味である。ヨウ素については、半減期の影響により減少傾向にある。

Q. 海岸線の砂などの土壌への影響は評価しているのか。

A. 発電所北側、南側の沿岸部、沖合の海底土のサンプリングを実施し、海底への放射性物質の沈降を確認していく。

Q. 原発で働いている作業員の人数は、今後どの程度増やしていくのか。

A. 福島第一原子力発電所の仕事を実施している作業員の数としては、本日 2,683

人が働いている。人数は増加傾向にある。この値そのものに目標値があるわけではなく、作業に応じて必要な人数を確保するようにしている。なお、本館1階ホワイトボードに記載している作業人数は、朝6時30分時点での入行者数を記載している。

Q. 発電所内にゴミが増えてきていると思うが、どの程度の量になっているのか。
A. 5月下旬までの積算量として、1Fに300m³、Jビレッジに600m³保管されている。

Q. アレバ社の除染装置については、試運転はいつ頃を予定しているのか。
A. プロセス主建屋にて設置工事を実施している。試運転の時期については決まっていない。

Q. アレバ社の除染装置で処理する汚染水は水と考えるとよいのか。またフィルターが詰まったりすることはあり得るのか。
A. 多少建屋内に溜まっているほこり等は含んでいるが基本は海水である。また今回は潤滑油等の油分を除去する必要があり、除去装置にて処理した後、キュリオンの吸着塔にてセシウムを吸着、アレバ社の装置で凝縮、沈殿させる。なお、水の分析も実施しており、今回の冷却システムに影響を与えるものではない、という分析結果が出ている。

Q. 積算被ばく線量で250mSvという設定は福島限定とし、他の原発については働けるようにするべき、という考え方に関する見解は。
A. 厚生労働省の指導のもと、緊急時被ばく線量として250mSv、他の原子力発電所で働く上限として5年間で100mSv、1年間で50mSvとし、現在はその運用で進めていくことを考えている。

Q. 以前は他の原子力発電所でも働けるようにする方が作業員のためになるのではないか。
A. 作業員の状況を見ながら、必要に応じて再度厚生労働省と相談していきたい。

Q. 積算線量限度については、どの程度の値が適切と考えているのか。
A. 現在、厚生労働省の指導を元に運用している緊急時被ばく線量として250mSv、他の原子力発電所で働く上限値として5年間で100mSv、という値については、変更する必要はないと考えている。

以 上